

# Access Report

2020年 5月 10日号  
アクセス教育情報センター

## 目次

学校情報	教育情報	教育情報	その他	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>・明法中高</li> <li>・共立女子第二</li> <li>・横浜女学院</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都休校延長</li> <li>・オンライン授業</li> <li>・民間試験延期</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語民間試験</li> <li>・9月入学</li> <li>・福岡市</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名言・迷言・冥言</li> <li>・専門家会議</li> <li>・新型コロナ1</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナ2</li> <li>・報道の自由度</li> </ul>

## 学校情報

### 明法中高 WEB 学校説明会の案内

(学校ホームページより)

新型コロナウイルス感染拡大や緊急事態宣言発令で、受験生・保護者の皆様も不自由を強いられ、ご不安を抱えていることと存じます。

本校でも2021年度中学入試に向けた“Kick Off”学校説明会を5月16日(土)に開催することとしておりました。現段階では、その時期にどのような状況になっているかは予想できませんが、おそらく本校に受験生・保護者の皆様が集まっていた際の学校説明会は開催不可能だと考えております。つきましては、WEBによる“Kick Off”学校説明会を5月16日(土)にリリースすることといたしました。

主な内容(予定)は以下の通りです。一部の内容は公開いたしますが、多くの内容はご予約いただいた受験生・保護者の皆様限定で公開する形式をとらせていただきます。

- 校長挨拶
- バーチャル校舎案内
- 「必見!」明法中学の教育 \*NHK E テレで放映された「探究的学習」も紹介!
- 2020春大学合格実績と新たな進路指導体制
- 2020年度入試の結果

○保護者が語る明法

○明法教員紹介

4月16日(木)より予約を開始いたします。

ぜひ、こちらのフォームからご予約下さい。

プレ動画をアップしましたので、ぜひご覧下さい。

[https://www.meiho.ed.jp/blog/entry\\_new/000826.html](https://www.meiho.ed.jp/blog/entry_new/000826.html)

今回の中学受験生・保護者様対象のweb学校説明会は、ぜひ塾の先生方にもご覧いただければと存じます。受験生・保護者様向けとは別に予約フォームを作成いたしました。

ぜひこちらのフォームからご予約ください。

<https://www.meiho.ed.jp/>

## 共立女子第二 説明会動画(ダイジェスト版)を配信

(ホームページより)

中止となった中学校説明会の内容をまとめたダイジェスト版動画を配信します。(4月18日公開版) 4月18日に予定されていた「春の中学校説明会」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策により中止とさせていただきます。早くからご予約をいただいた皆さまにはたいへんご迷惑をおかけしました。

その代替りとして、説明会の内容をコンパクトにまとめたダイジェスト版 Web 中学校説明会動画を作成しました。

[https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/nichukou/others/info/detail.html?id=296&fbclid=IwAR1ngwz4IWn7YbkipB9-ZiDEsDZp1S8wIgpqGG02r7aMbIrreNIKWK\\_3bjo](https://www.kyoritsu-wu.ac.jp/nichukou/others/info/detail.html?id=296&fbclid=IwAR1ngwz4IWn7YbkipB9-ZiDEsDZp1S8wIgpqGG02r7aMbIrreNIKWK_3bjo)

3月21日に公開した動画に、新たな情報なども追加した最新版ですので、どうぞご覧ください。

また、今後行われる学校説明会・各種イベントなどにも、実施された際にはぜひご来校ください。

<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/nichukou/>

## 横浜女学院 訪問報告(2020年4月20日)

(承前 アクセスレポート630号より続く)

校長 平間先生

教務部長 佐々木先生

### 6. 人生を生きるとは

サプリメントや点滴で、生きていくために必要な栄養は取れるのかもしれないけれど、美味しいものを食べて栄養を取りたいと思いませんか。

映像で幾ら綺麗な景色をみせられても、この校舎から見る冬の夕日の美しさにはかなわないと思う。感動のしかたが違う。

実際の視覚や嗅覚、触覚と結びついた記憶や感動はずっと体の中に残っていく。

自分は男子校で過ごしたので、今でも男子校に行くと言いで当時のことを思い出すことがある。本校の卒業生も学校に戻ってきたときに、校内の景色や匂いで当時のことを思い出すのだろうと思う。

中高時代に、人と接する中で怒ったり、悲しんだり、喜んだり、考えたり、悩んだりといろいろなことを経験してほしい。それが後の人生を豊かにするのではないか。

それを全部端折ってしまったら、ただ生命体として生きているだけになってしまう。

せっかく人生を生きるというチャンスをもたらしたのだから、豊かな人生を送って欲しい。それが横浜女学院のあるべき姿だと思っているし、そう思う人たちに集まって来て欲しい。

美味しいものがたくさんあるのに、サプリメントや点滴で栄養を取るような人生にしたらもったいない。そう思う人はたくさんいると思う。

学校として卒業後の進路保障をすることは当然だが、それだけでなく人生を楽しむことも知って欲しい。以前のアクセスレポートの記事に聖光学院の工藤先生が「東大を目指さない」ということが載っていたが、人生の目的はそこではないよということだと思う。

今回の新型コロナウイルスをキッカケに、自分たちがどう生きるのかが問われるのではないか。横浜女学院の国際教養とは何なのかもこれから問われてくると思う。

これから自分の国さえよければ、自分さえよければという風潮がさらに強まってくのではないか。それではいけないということでやってきたものが国境どころか県境も越えてはいけない雰囲気になっている。

## 7. 無駄なことはない

教員になって40年。この学校にずっと勤務。アツという間。

やりたいことをやらせてもらえたので、満足している。周りの人は大変だったかもしれないが。

20代の後半の時期に、途中4年間ほど、父親が倒れその仕事を手伝わなくてはならなくなり、学校を辞める。母親が自分の好きな仕事に戻りなさいと言ってくれて、あらためて学校を探していたら、横浜女学院から戻ってこいと言われ、そのままずっと横浜女学院に。

渡辺和子さんの言葉「置かれた場所で咲きなさい」ではないが、自分にはこの学校が合っていたのだと思う。でも、学校以外の世界を経験できてよかった。小さな会社だったが経営するということを感じることが出来た。人生に無駄なことはないと、自分の経験から言うことができる。

学校は生徒がいれば学費が入ってきて、その金を使うことが出来るが、生徒がいなくなれば、使えるお金がなくなってしまう。そうならないためには生徒が集まる魅力がなければならない。

でも、生徒を集めるために魅力的になろうとしてもダメだと思う。生徒募集の手法で集める学校は、一時はよくても長続きはしないのではないか。

以前、英語でプロGRESSがもてはやされた時期があって、プロGRESSを使わなくてはとプロGRESSを導入した学校がたくさんあったが、はたしてプロGRESSがその学校の生徒に合っていたのか。生徒募集のための手段としてプロGRESSを使おう、ICTをやろうというのではダメだと思う。生徒のためにというのが先に来ていない。

先生方には生徒を集める学校ではなく、生徒が集まる学校にしていこうと話している。

生徒募集を担当して良かったことは、各私学がどんな努力をしているかがよく見えたこと。

各学校の取り組みの根っこに何があるのかが大事で、そこがブレないようにしないとけないと思っている。

(教員になって忘れられない経験は)

2009年の新型インフルエンザが世界的に流行ったときに、生徒180人を引率してニュージーランドに行く。ニュージーランドでは新型インフルエンザは収束していたが、事前にニュージーランドに行って、もし発生した場合のシミュレーションをして(万が一のときの病院の医療体制、大使館との連絡、航空会社との連絡等)出かける。そうしたら、横浜女学院の生徒の中に新型インフルエンザの生徒がいて、生徒間でまん延して、97人が感染。毎日、体調の悪い生徒の対応に追われる。宿泊していたホテルを借り上げ、そこに専門の医者に来てもらいアドバイスをしてもらう。それを知ったニュージーランドの新聞社が1面に「また新型インフルエンザやってきた」と取り上げる。

パンデミック状態なので、教員は熱が出て具合が悪いと言えない。また、男性教員は生徒の部屋に入れないので、食べ物を買出しに行って生徒の部屋のドアに掛けて渡したり、町にある体温計を買えるだけ買ってきたりした。そんな中で、生徒が「先生、神様は乗り越えられない試練は与えないんだよね」とか「先生、顔が暗い」と言って、逆に励ましてくれる。

帰国して保護者の皆さんに謝罪の説明会をしたときにも、引率の責任者として辞表を書いて持っていたが、むしろ感謝されて温かく受け入れて貰えた。そうした生徒や保護者、教員の対応に、この学校に勤めていてよかったと感じる。

それだけに、二度とああした状況を起こしてはならないと強く思っている。

## 8. CLILについて

CLIL(内容言語統合型学習)

「読む・聞く・話す・書く」の4技能に「考える力」を加えた英語5技能を豊かに伸ばします。身近なテーマから実在する国際問題に対し、キリスト教の精神とESD的価値観に基づく当事者意識を持ち、任務を英語で遂行できる機能的言語能力を育成します。(ホームページより)

佐々木先生

時間割の中でCLILの時間を設けているが、内容的にはいろいろな教科が混ざり合っている。昨年は聖書や世界史の内容(平和というテーマでローマ帝国の内容を扱っていた)をCLILで行っている。高2くらいになると、いろいろな分野の知識が豊富になってきているので興味深くやっている。

CLILの時間は何を扱ってもよい。できるだけ生徒の興味関心、思考力を高められることをやって欲しい。日常生活の英語表現を覚える時間ではないのだから。CLILで扱うテーマは身近な関心を持ったことから、聖書の中の言葉をどう思うかということまで多岐にわたっていい。

生徒たちは、CLILの授業を通じて、やれば出来るということを感じている。そういう英語で考えるという環境を用意してあげることが大事だなと思う。

CLILの一環として、東大に推薦入試で進学した卒業生が企画して、各国の教育制度の違いや国民性の違いについて、サレジオ学院の生徒と英語で議論するコラボ授業を行う。女子は口数が多く発言が多いが、事後のアンケートで「男子はよく考えてから発言することがわかった」というのがあった。

秋田国際教養大学に生徒が語学研修に行き、同志社中高の生徒と「AIで30年後にいらなくなる職

業」テーマで討論していた際、同志社の生徒の「自分は彼女も奥さんもAIでいい」という発言に対して「人が生きていく上で愛情が必要だから、そんなことを言っているとあなたは死にますよ」と女学院の生徒がたしなめていたことがある。

人と付き合う中で自分の思い通りに行かないことが多いが、自分の思い通りにしかいかない人生って、逆に不自由な人生なのではと思ってしまう。

なぜ神様は自分の思い通りにさせてくれないのかというのは、自分が信仰を持ったときの大きなテーマでもあった。そうしないのは神が自分ことを大事に思っているからだという結論に達した。神が存在するのに何故この世に悲しみや苦しみがあるのか。それがあから神が存在するのではないか。

## 9. 自立した人に

その時代、その時代によって生きていくために必要な力は変わって行く。今の子どもたちにとって必要な力としてICTを使う力やグローバル力も求められているが、やはり大事なものは自立するという点ではないか。

(緊急事態宣言を早く出して欲しいという人が7割を超えたという報道がありました。今は皆が与えられること、してもらうことに慣れてしまっているのではと感じます。)

緊急事態宣言が出ているかどうかではなく、自分がどうしたらよいかを決めて行動出来るようになっていきたいですね。自由に考えて発信できる権利と、発信したことに対する責任を自覚するということが、今の教育に欠けているかもしれません。

おかしいと思ったら、それは間違っていると言える人を育てないといけない。太平洋戦争にいたる過程で、国民の多くが戦争を支持したわけです。また、冷静な時代判断のできる人がトップにいないと国が滅びるし、多くの人が大変な苦勞をすることになるという経験もしてきている。

横浜女学院が取り組んでいるCLILにしても国際教養クラスにしても、自分で考えて発信するという方向性は間違っていないので、これからどうやって実を結ばせていくか。それが進学結果としても表れてこなければならぬと思っている。

学校という組織も誰かに言われたからそうするのではなく、違う見方をする人が必ずいて、その上で、これで行くようになったら、それで動ける信頼関係が作れていないとダメで、それが出来ているのがこの学校のカリキュラムだと思います。

## 10. 女子校として

女子校の場合、生徒たちが教員の言うことをそのまま鵜呑みにしがち。それではいけないと言うことをどう伝えていくか。女子の場合、信頼関係を築けるかどうかが大変重要。その信頼関係の中で、違うことは違うと言える教育を提供していきたい。

横浜女学院の生徒は共同体の作り方が上手いので、学校をとっても好きになっている。

それらを踏まえて、女子校でなければ出来ないこと、女子校だからできることというのが沢山ある。ですから、自分が校長の間は女子校で変わらないつもりです。

今後、時代がどう変わっていくのかにもよりますが、キリスト教による教育だけは譲れません。

個人的には男子を教えてみたい気持ちもあります。昔、中高の担任に、女子校の教員になりますと挨拶に行ったときに、「お前は男子校の教員になった方がいい」と言われたことがあります。

学校にはいろいろな形態があつていいと思う。それが私学の多様性にもつながるわけですから。でも、生徒が集まらなくなったから共学にということはしたくない。

### 11. 大学入試に関して

今年は推薦を希望する生徒が多く、指定校推薦だけで6割～7割の生徒が利用していた。例年だと3割くらいで7割は一般受験なのですが。来年から入試制度が変わるということで、安全志向が強い入試だったと言えます。

成城、成蹊、武蔵、日本女子大、明治学院とは高大連携を行っている。指定校の枠を取るために高大連携を行ったわけではなく、こうした小規模で中身のある大学に生徒の関心が向いてくれればと思っている。

### 12. 新型コロナ後の学校

(今回の新型コロナウイルスによる休校措置で、文科省は授業時間数にこだわらず、家庭学習等で内容を習得出来れば単位として認めるというような発言がありますが)

今年に関してはいつ再開できるかもわからないから、そうせざるを得ないのでしょうか。

連休明けも緊急事態宣言が続くようだと、学校としても対応が大変。今後も授業時間数の縛りがなくなれば、学校の裁量が広がってよいのですが、はたしてどうなるのか。9月新学期に関する動きも出てきていますし、高3生としてはその方がよいのかもしれない。

新型コロナウイルスの対応がいつまで続くかわかりませんが、収束したときに学校のあり方や教育とは何かといったことが問われてくるのではないかと。

今回の休校期間を経験して、今後、学校に通う必要は無いと思う人も出てくるかもしれない。

学校にみんなが集まるのは何のためなのか。太陽の光を浴びて育つのか、人工の光の中で育つのかの違いをわかって貰えるように、キチンと説明しないとイケない。

### 13. 中学入試に関して

(先生のところは出願に際して窓口とWebとを併用していますが)

今年は2:8くらいの割合で、昨年とほぼ同じでした。

窓口をやめたくないのですが、時代の流れというか、保護者の意識が違ってきていますね。

窓口出願に備えて、受付初日の朝6時には学校に来ていましたが、受付開始時間の前に来られる方は1人もおられませんでした。昨年は7時30分頃に来られた方がおられましたが。

出願の際に、窓口で緊張して並ぶという時代ではなくなったということだと思います。

合格発表もWebと掲示の両方で行っていますが、多くの受験生が保護者と一緒に掲示を見に来てくれています。Webで合格を確認してから掲示を見に来られる方がほとんどですが、お子さんが頑張った成果なのだから、自分の目で実際の掲示板にある番号を見せてあげて欲しいと思います。最初の試験で不合格で泣いた子が、翌日、合格を確認したときの笑顔を見て欲しいと思います。そこに人生の機微があると思うので、掲示発表は続けるつもりです。出願も発表も全てWebだけにした方が学校としても楽なのですが、中学入試がそこまでドライになってよいのかと思う気持ちが捨てきれずにいます。

(文責 アクセス教育情報センター)

(文中の( )はアクセス教育情報センターの発言)

<https://www.yjg.y-gakuin.ed.jp/>

---